

令和5年度授業事例：高校芸術科（美術）

題材名 手拭いのデザイン

授業者：八重樫 かおり

授業の狙い・単元のゴールなど

評価の方法・評価のポイントなど

- ▶ シルクスクリーンの特性を生かした表現を考え、手拭いを模様で美しく装飾する。
- ▶ 創造的活動を通して、自分としての価値の確立を目指すため、他者作品の鑑賞に加え、自己作品のプレゼンテーションを実施し相互理解を深める。
- ▶ 鑑賞会における対話的活動や自己の考えを文章にまとめる学習活動によって、表現力や発信力を高める。

- ▶ 授業態度、作品、振り返りシート、鑑賞シート、発表用データ、発表態度
- ▶ デザインする模様の中につながりのある部分をもうけ、シルクスクリーン(版画)の特性を生かした表現をしているか。
- ▶ 他者作品についての感想や自己作品についての発表内容を基に、作品のよさや美しさを感じ、多様な表現について理解を深めているか。

授業の流れ・ワークシートなど

授業の流れ

- ・シルクスクリーン(版画技法)を用いて手拭いの模様をデザインする題材。
- ・模様の発想や色の選択、配置や構成の工夫など試行錯誤しながらシルクスクリーン技法を習得し丁寧に作品を制作する。
- ・作品完成後に鑑賞会を実施し、感想と自分の制作について振り返りまとめる。
- ・鑑賞会后、各自の制作経過や作品についてプレゼンテーションデータを作成する。
- ・発表会を実施する。

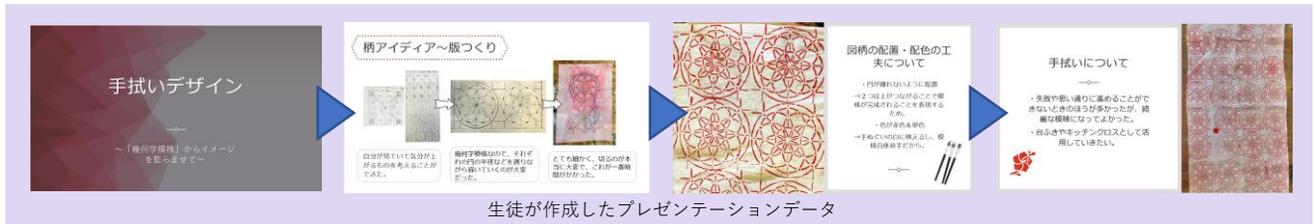
授業の様子



手拭い作成中



プレゼンテーションデータ作成中



授業の様子を振り返って・生徒の変容・感想など

これまで作品鑑賞会は毎回実施しており、その中で作品のよさや価値に対する生徒の固定観念があると感じてきた。多様な作品を感受し自分なりの価値を見出していくことが、表現にも鑑賞にも重要だと思い、鑑賞会後の自己作品プレゼンテーションを実施した。プレゼンテーションの取組みは、今回の題材で2回目であり、1回目はパッケージデザイン作品のグループ発表であった。その際、生徒から「発表を聞いて、作品の見方に影響があった。作者の考えを知り、自分の制作を振り返ることで視野が広がった」との感想があり、2回目の実施では個人発表とした。題材自体が制作中に成果がわかるものであり、生徒の集中力も高く、多くの工夫をしたり他者作品に興味を抱き協力して作業する姿が見られた。また発表にも各自の工夫が見られ伝える技術や表現力が向上したと考える。次回制作への前向きな意見も多く、満足感を得られたようである。今後も定期的に発表会を実施していきたい。